



今回のテーマは **胃がん (Gastric cancer)** です。

【胃がんの統計】

国立がんセンターによる 2012 年の最新情報では、一生のうちに胃がんにかかる確率は、**男性の 9 人に 1 人、女性の 18 人に 1 人**と報告されています。以前、胃がんは日本におけるがん死亡数の 1 位でしたが、2012 年は 3 位になりました。順位が下がった背景に**早期発見**や**治療の進歩**により治る人が増えたことがあります。

【要因】

＜危険因子＞

①ヘリコバクター・ピロリ菌

ピロリ菌は胃に生息する細菌です。胃粘膜の炎症を誘発し、萎縮性胃炎を経て一部は**胃がん**を引き起こすことがわかっています。除菌によりがんの発生を抑制できる可能性があります。ただし、除菌だけで胃がんの発生をおさえることはできないため、胃内視鏡検査や胃 X 線検査による定期検査をおすすめします。



②たばこ

たばこを吸う人は吸わない人に比べ、胃がんになるリスクが **1.7 倍**になります。たばこの煙には遺伝子を傷つけたり、がんを促進したりする発がん物質が多く含まれています。



③塩分・塩蔵食品

塩分の摂り過ぎは胃粘膜を障害し、発がん物質の影響を受けやすくします。塩分を多く摂取する地方では、胃がんにかかる率が他の地域より高いというデータがあります。



＜予防因子＞

①野菜・果物



野菜や果物に含まれる成分は、胃がん発生を予防するとされています。

②緑茶

日本女性に限って、緑茶を摂ることで胃がんのリスクが低くなると言われています。

【胃の構造】

胃は食物を蓄える袋状の器管で胃壁は粘膜層、粘膜下層、筋層、漿膜下層、漿膜の 5 層で構成されています。がん細胞は表面の粘膜から深い層へと浸潤していきます。粘膜または粘膜下層までにとどまっているものを「**早期胃がん**」、粘膜下層をこえて筋層より深く達したものを「**進行胃がん**」と診断します。



【治療法】

胃がんを早期に発見できれば体の負担が少ない内視鏡的治療での根治を期待できます。進行すると外科的手術や抗がん剤、放射線治療などを併用するため体への負担が大きくなるだけでなく、期間や費用も早期の何倍にもなります。早期に発見するために**がん検診 (胃内視鏡・胃 X 線)**を受けることが大切です。

【トピックス】

★抗がん剤の中に「**分子標的薬**」という薬があります。正常な細胞は傷つけずがん細胞を攻撃するので、副作用が少なくかつ治療効果が高まります。★がんにかかっている個人の**遺伝 (ゲノム) 情報**を解析し、個人にあった医療 (**テーラーメイド医療**) を行うための臨床研究が進められています。

■当センターでは、**胃がん検診 (内視鏡検査・胃 X 線検査)**を行っていますので、ご利用下さい。